

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290800014		
法人名	こもれび福祉会		
事業所名	グループホームこもれびの郷(銀杏ホーム)		
所在地	島根県益田市横田町710		
自己評価作成日	平成26年11月25日	評価結果市町村受理日	平成27年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [x.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2014\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=329](http://x.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=329)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成26年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

拘束なしの自然な介護を目標とし利用者個々の権利を重視し、自己決定の伴った援助に努めている。年を重ねる事に地域との連携も深まり、施設の運営推進会議や火災・防災訓練等へのご協力を頂いている。全国的に災害が多発する中で地元の自主防衛組織の参加をいただき、9月の防災訓練を実施した。重度化に伴い施設から外へ出て行くことが少なくなり、近隣の人を呼び込む工夫をしている。月1回の茶話会、施設行事の”さんさんまつり”など施設行事も定着し、地域と良い付き合いが出来るようになってきていると感じる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全体的に重度の人が増え、自分の思いを伝えたり出かける事が困難になってきているが、馴染みの人に声をかけて来て貰ったり、寿司屋さんに来て貰い、目の前で握った寿司を楽しんでもらう等、利用者の楽しみの場を工夫して作っている。開設当初から地域の人との関わりを大事にし、毎月茶話会を継続して行い、「さんさんまつり」には神楽を招き200名を超える大勢の人の参加があった。利用者があるままに生きられるように、現在の課題を認識しながらさらなるサービスの向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	”自然に寄り添い心からの笑顔を”という理念を基に日々支援を行っている。理念に沿った行動目標を掲げ実践に繋げるよう努力している。	行動目標を掲げて意識づけをしながら取り組んでいて、毎月会議で身近な事例を挙げて話し合い、理念に基づいた実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とは年を追うごとに繋がりが深くなって行っていると思う。1回/月茶話会、2回/年避難訓練、1回/年さんさん祭り	毎月地域の人と行っている茶話会は定着し、ホームの理解を深める機会となっていると同時に、おしゃべりをする事で利用者の刺激にもなっている。自治会の協力もあり意見を貰っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	啓発活動として講演会を開いたり運営推進委等でも認知症の人の実情を話したり、施設内でのひやりハット等を隠さず話をしたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に6回/年開催。広い分野からの出席者により貴重な意見を頂いている。	認知症について理解して貰うよう実情を隠さずに報告し説明をして意見交換をしている。委員からいろいろな情報を得る事が出来、サービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	問題や不明な点があれば相談し、助言してもらっている。	日頃より連絡を取りながらサービスの向上に協力し合っている。相談にもきちんと対応して貰っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。日中両玄関、施錠廃止、自動ドア電源切る。 施設内・外研修(権利擁護推進員養成研修への参加・施設内での取組)	圏域のGHの交流会での勉強会や内部研修で学び、身体拘束をしないケアを目指し取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護推進員の研修に参加したり施設内研修でできるだけ拘束しない方向でケアするよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	益田圏域成年後見と共調し、連携を取り利用者家族に助言が出来る流れをつくっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間を取り、施設の重要事項の説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年一度家族会を開き意見を聞き取り、次年度の事業計画に取り入れたりケアプラン承認の際にも意見をいただくようにしている。	年1回家族会を開催している。家族からの行事に対する意見を計画の中に盛り込み、「さんさんまつり」には神楽を呼び、大勢の参加者があった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要な時はその都度聞くようにしているが、改まった場は設けてはいないが意見を聞く時間は必要と思う。	管理者は日常の中で、何でも言い合える雰囲気、関係作りを行い、職員の意見を聞くことに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与時に個々の平素の勤務状況を把握し、反映している。各研修等にも積極的に参加し、職員のスキル向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が力量を把握した上でスキルアップの為に研修の参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	益田圏域のGHの交流会に参加し、他施設との交流や勉強会に自主的に参加し、情報交換をしスキル向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の際に面談にて聞き取った情報を基に、職員間で共有し、経過観察しながら困っていること、不安なことを把握し安心した環境・関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前家族や本人からの聞き取りをしたり入所後も気にかけて声を掛けたり、思いを傾聴するよう努力している。面会時等を利用して話を聞き出すようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時の情報から仮計画を行い、ご本人様の様子をしっかりと把握した上で6ヶ月の介護計画を作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する事で信頼関係を築いている。出来ること出来ない事を見極め、日常生活の中で役割分担し、無理やりでなく自然な関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様は近い立ち位置にいていただくことをお願いし、受診時や入院時などの付き添いをいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所へこちらから訪問することは難しくなって来ているが施設へ来ていただくように声掛けをしている。	利用者や家族の事情で出かける事が少なくなってきたが、馴染みの人に来て貰うように声をかけたり、ドライブの時に家の様子を見る等支援している。可能な人は外泊をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しみを通じて利用者様同士関わりを持たれる様な支援を行っている。関わる事に困難な方には、職員が橋渡しを孤立しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域の方の入所が多くなり他施設や病院へ移行されても家族から情報を得ている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分の意向をはっきりと伝える事ができる方は少なく日頃の会話や表情から読み取り支援している。出来るだけお茶の時間には利用者様とゆっくり関わる時間を設けている。	信頼関係を大切にして一対一でゆっくり関わり思いの把握に努めている。家族からも情報を引き出し支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃の会話でも過去の体験、家族の話等を聞き出し施設の生活に生かしたり、家族からも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	軽作業、体操などの様子から一人ひとりの現状把握に努めている。そこから現存機能に応じた仕事・家事などを依頼している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議で個々のプランのモニタリングはもちろんのこと、新しい課題への対応も今必要なケアへの取組、家族の意見を考慮してプランの作成に取り組んでいる。	ケア会議で毎月モニタリングを職員の声を聞いて行い、6ヶ月毎のケアプラン送付時にモニタリング記録を見て貰い、意見を反映させた介護計画を作成するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づくケア、介護記録に努めている。それを元にモニタリング等を行っている。共有すべきこと、変化があったことは赤線でチェックし、夜勤者にも必ず目を通して日中の様子を知っておくようお願いしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所者の状況の変化を見定め、ニーズを把握しケアプランの変更など柔軟な対応を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設と地域との連携は、出かけていくことができない状況の中で受け身の状態だしお世話になることが多い。近隣の保育施設の園児と触れ合う事で自然な表情、喜びや懐かしさを感じられ、会うことを楽しみにしておられる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は基本的に家族、本人の希望重視。毎月の往診には日頃の生活状況や体調、服薬状況等医師に伝えている。必要があれば専門医への紹介をお願いしている。	協力医、かかりつけ医の往診があり、利用者の状況を伝え、適切な医療が受けられるように支援している。車椅子になり家族の同行が困難になった為、話し合って協力医に変更した人もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	デイサービスの看護師が入所者に何かあったときは適切なアドバイスをし、医療との中継を取ってくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設側の意向を病院に伝え、早期退院をお願いしている。逆に退院困難が考えられる場合は、その後の対応を想定し家族の負担の軽減に心掛けている。病院とは年1回話し合いの場を設け、意見交換をし、良い関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には早い段階から意向を確認し施設として対応できることは説明している。かかりつけ医からの説明も含め家族の思いに沿った対応をしている。重度化した場合は状況により他施設への申し込みもお願いしている。	看取りの経験がありターミナルケアについての研修も行っている。家族、医師との話し合いで、条件があり、希望があれば、三者で話し合い出来る事には対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急を呼ぶことも何度か経験をした。AED使用等の初期対応の訓練を定期的にしなくてはならない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の自主防衛組織の訓練に参加したり、運営推進会議等で自治会の方にも参加し、話し合いに加わってもらっている。火事(夜間想定)、自然災害時の避難訓練は年2回行っているが、重度化している現状を考えれば頻回な訓練は益々必要。地域とも更に密な繋がりが必要。	避難訓練への協力や、運営推進会議でも様々な角度からの意見を貰っている。自然災害への対応について、さらに現状に即した対応方法を検討したいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けは利用者個々を意識して対応するようにしている。トイレ誘導時、ご本人の羞恥心に配慮しながら対応している。誇りを損ねない言葉掛けを行っている。	一人ひとりを尊重し、言葉かけ、誘導方法等、周りに気を配りながら支援している。職員の提案でトイレに目隠しの対策をとり改善を行った。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者の権利を尊重し、全ての動きに問いかけをし自己決定をしていただくことを心掛ける。自己決定や希望を表現しない人に対して選択肢を提供し、選んでもらったり日常の会話や何気ない仕事から読み取る努力はしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムに合わせてながら自然な流れで自己決定、希望に沿って過ごしている。入所者本位に任せると動きがなくなるので、声かけを工夫し、動につながるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝ご自分で衣服を選んでいただいている。介助が必要な方には好みに合わせ支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の献立にも皆様の食べたいものを取り入れている。食材の皮剥きや、副食の盛り付け、食前の台拭き、食後の下膳や洗い終わった食器類を拭く等してもらっている。	皮むきや食器拭きなど、場面作りをして利用者の出来る事をして貰っている。利用者が何かに参加出来るよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態等個々のレベルに応じた対応を取るようにしている。咀嚼力、嚥下状態に合わせた食事形態をとっている。食事摂取状況は常に把握し少しの変化にも注意するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後対応している。義歯、自歯の対応、うがいの困難な人にはスポンジブラシでの清潔保持に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄間隔を読み取りトイレでの排泄に繋げる事を目標とし昼間は布パンツにしたり今を維持することに努めている。	トイレでの排泄を大切に支援している。利用者一人ひとりのパターンをしっかり把握して支援し、声かけ、誘導を行い現状の維持を目指している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況は体調にも大きく影響する為、排便チェック表を別に設け、常に注意している。野菜、水分を十分に採り個々の状況に合わせて早めの対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴に関しては介助の度合いが高くなり、2日に1度の入浴としているが個々の希望に添える支援が出来たらと思っている。	希望に沿った支援をしたいと考えているが、現在は一日おきの入浴になっている。介助や見守り等利用者に合わせて行い、手助けが必要な時には鈴を鳴らすように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に横になったりホールで過ごされている。室温や照明の配慮、眠れない人には話を聞いたり飲み物を提供してリラックスして頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が服薬の目的、副作用を周知することは難しいが、用法、用量は共有している。異変があったり状況によっては医師と連携を取り、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫い物や洗濯たたみ、食材の皮剥き等毎月お願いしている。(一人一人の特技、技術に合わせて)役割が負担とならぬよう気分転換をしながら楽しみにも繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日ではないが、2回/月程度のドライブや家族との外出・泊も自由に出来るようにしている。故郷への訪問も個別ではないが、数人でドライブに出かけた折に家の様子を車から見ている。紅葉狩り、桜の季節、紫陽花の咲く頃は外出している。家族にも外出できる人は出掛けてもらっている。	天気のいい日には散歩やドライブに行ったり、四季に合わせて外出行事を計画し出かけている。家族と外出する人もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の預かりは基本的にしらない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ふみの日を利用し、遠方の家族に便りを書いていただく。写真入り(本人の)ハガキを準備する。電話は希望があれば掛けている。携帯電話を使用している人もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに入所者様と作品づくりし、掲示することで季節感を取り入れている。ホールは、食事や憩いの場であり、ソファを置き、トイレ前には目隠しのカーテンをする事でリラックスできる空間づくりに努めている。	利用者と一緒に季節を題材とした作品を作って飾り、ソファやイスを置いて思い思いに過ごせる場所を作っている。程よい自然の明るさと木のぬくもりのある空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	たまりや木製の椅子を施設内や庭に置き一人で過ごす時間や仲間同士のおしゃべりの場を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や思い出の写真、ご自分の作品等を置く事で心地良い空間づくりに努めている。	家族との写真が飾られ、使い慣れた家具や好きな小物や作品を置き、利用者に合わせた居室になるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除、洗濯干し、食事作り、意欲を引き出し能力を発揮できる様な支援を日々行っている。職員もともに行う事でしっかりと安全にも配慮している。		